



戀愛小說家。



恋心がどんなものか  
知らないまま

空想物語の中で  
私は恋をしていた



先入るぞ

ダメ



ミュール  
風呂わいたぞ

ん！……  
後で……



分かったわよ  
入ればいいんでしょ

早い者勝ちな  
じゃあお先にー







……ん

からだ！

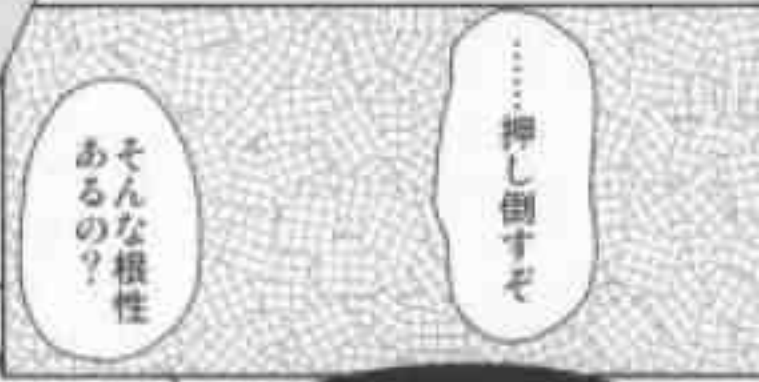


何を

隠せ

何

……ん



そんな根性  
あるの？

……押し倒すぞ



うまつ！？

え





あ  
それ続き書けたら  
読ませてくれよな  
ラストどうなるか  
気になる



風邪引くから  
早く服着ろよ



……これは  
もうボツ!

空想の世界の中では  
私は何にでもなれた



ミユール

登場人物も/舞台も  
感情や結末さえ都合良く削り上げて

誰かに愛された事なんてなるから

誰がも好きにたまるんておのれ



ん？

待って！

あ……



ちよっと夜回り  
行って来る

アヤタネ居ないから  
留守番よろしくな



今

……  
私も行ってらっしゃい



珍しいな  
お前がついてくるなんて

見えないと空気がなまぬと  
可憐いお目をしている



すぐ用意するから  
外で待ってて！

い？別に  
いいけど……





ミニニール？



.....



あら  
迷惑だった？

嬉しいよ

ソル・シニールに  
来てから二人で出掛ける  
事もなかったし



そう言えばそんな事  
言ってたっけ

.....あー.....



あれから.....  
何か始まった？  
私たち



そうだな  
強いて言えば同居生活が  
始まったくらいかな？

同棲とは  
言わないのね

一つ屋根の下に  
一緒に住んでるだけだろ

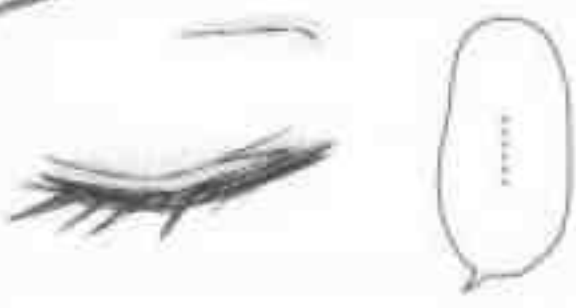
俺は単なる居候  
みたいな感じだし



不満？

焦って全部ダメにするくらいなら今のままの方がいい

——って言ったらまた枯れてるってお前に笑われるだらうけどな



……



怖くないだろ

ギョウ



……変化は怖い？  
未来は怖い？



何か可愛い……

あ

これでも一応  
毎日必死なんだからな



疲れたなら  
帰ろうか？

ひゃいっ!!

ミニメール

って  
何考えてるの私！  
ううう……  
今私絶対手に  
すごい汗かいてる



もう少し……  
外の空気  
吸っていたい……



……変わって  
行く事は

……未来は  
怖いかな？



……なあ

うん  
俺も



結末が決まってる  
物語の世界とは  
違うもの



怖いわ



……現実には悲恋物  
じゃなくてハッピー  
エンドがいいな

リアルで刺される  
のは勘弁だからな



それはあなたの  
心が次第だね

何だよ  
今から殺る気満々か？



かつて私が描いた空想の物語は  
バッドエンドだった



他の結末だって  
用意出来たはずだったのに

あの時は自分自身  
どうして良いか分からなくなって

自分の手で全部壊してしまった

お待たせ



それでも

ありがとう

熱いから  
気をつけろよ

救いのない物語の中で  
最後まで彼女に向き合った  
彼を描いたのは

私の全てを救い受け入れてくれる人を  
無意識のうちに求めていたからかも知れない



ハンツ見えてる

何?

.....



男の劣情を煽るような  
真似はやめなさいって  
言ってるだけ

男が細かい事  
言わないの

.....どうせ何も  
しないクセに



何度も言ってるけど  
はくのが普通だからな

.....ちゃんとはいてる  
だけいいでしょ



——ねえ  
また夜回り行くの？

……



何か言ったか？

別にー



当番が回って  
来たらな

まだ大分  
先だぞ

そっ……



っ！  
!?

よう……と

狭いからあつら  
行きなさいよ

……



……この前  
思ったんだけどさ

……



コスモスファイア  
ではそんなに  
感じなかったけど

……多分そこまで  
細かい設定して  
なかったから……

ふーん



ミユールの手  
想像してたより  
小さいな

……そ……  
そう？



……  
何なの？

恋愛小説とかだったから  
もっとう突然のラブリンクが  
発生して盛り上がり……

ねえ……  
恋人同士って  
何するの……？



……





っていうかヘンな意味とか関係なく！  
ってあーもう何言ってるか  
分かんないけど！

俺の方が  
何言われてるか  
意味分かんないぞ

えっと……  
だから！  
何していいか  
分からなくて  
間が持たない！

え……あ  
別にその……ヘンな  
意味じゃなくて！

……



難しいこと  
言い出したな……

……だから……  
恋人ってものが  
どう言う感情を持って  
して定義されるものなのか  
……その……

う……それは  
……その……

……俺のこと  
恋人だっけ  
思ってた？

……



だから何となく  
想像はできるけど……

確かにそういうゲームでは  
いっぱい遊んだし脚本も  
色々書いたし……

誰が言ったのよ  
そんなこと！

恋愛モノは  
得意ジャンル  
なんかじゃ  
なかったっけ？



今まで実際に  
経験した事のない  
感情だから！

これが正しいか  
分からない！



自分の気持ちも  
よく分からないなんて  
我ながら情けないわ

ミユール……

……うん



難しいな  
ホント

あ………下書きで  
「ここで暗転 場面転換  
みたいな事になっては  
駄目」

胸が持たない！  
なんで悩まなくていいのに……



思い描いたシナリオが  
通りには進まないのが  
現実なのよね

!?



って混乱して  
草生やしてる場合じゃない!  
いきなり何事!?

心の準備が……!!



クロア……

……



わーっ!?わーっ!?  
ちよWWおまWW





変な感じ

気が付くと  
クロアの事ばかり考えてる

何で一人のニンゲンに  
こんなに心を持って行かれてるんだらう

ミユール  
入るぞ

コラ  
寝るならちゃんとして  
布団の中に入って  
ないと風邪引く

眠いならたまには  
早く寝ろよ

お前いつも  
夜更かしたから

……寝るまで  
話し相手になつて



話してたらお前  
朝まで寝ないだろ

……

……そう言う顔  
普通に出来る  
ようになったよな

前は笑顔作ると  
顔がつるつて  
言ってたのに

よく分からないわ……



自分の事なのに  
おかしいわよなんて

自分で割った  
脚本の世界なら  
自分の心も  
あなたの心も……

結末だって  
何もかも全部  
自由に出来るのに



ああ そうだ

ミュールは先の事が  
全部分かるような  
つまらない物語を書くのか？



あの日

この先にどんな  
未来が待っていても

一緒に居たいと  
言ってくれたこの人に



私は  
生まれて初めての恋をしている

あなたが望むような  
ハッピーエンドの物語……  
私に書けると思うう？





だけど  
色んな結末が  
あったっていい

ハッピーエンドじゃ  
なくても大切に  
手放したくない本  
つてのもあるだろ

……もちろん



好きって事？

嫌いじゃないって  
言ってるだけよ



ん……

じゃあ好きって  
事にしとく



……あなたの  
その言う所

嫌いじゃないわ



時間が足りない

間が持たない  
なんて言ったけど



……この前言った事  
訂正するわ



……おまで……

一番近くに居て……

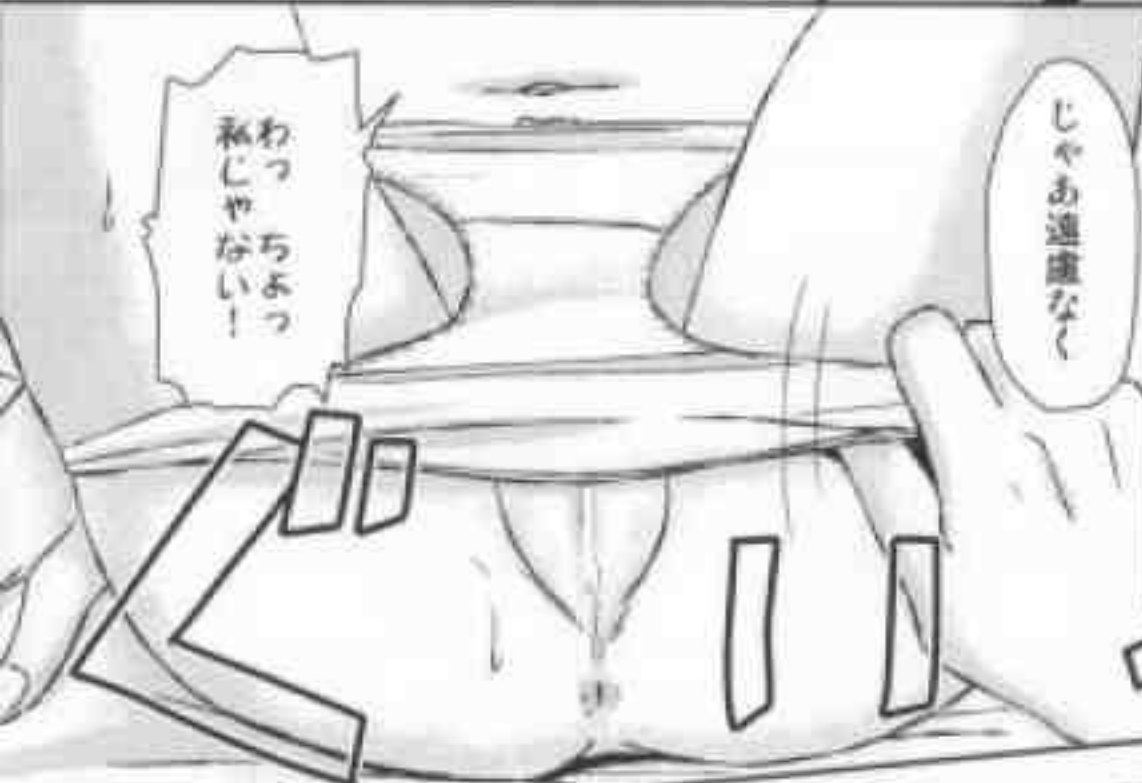
ギョッ

んっ

……

ギョッ







……好きだよ  
ミユール

……ん

まっ確かに  
こっちの方がいいな



……

んー  
どうだろうな

多分  
今よりもっとずっと  
好きになつてると思う



……朝になつても  
同じ事言える？



……おやすみ

……おやすみ……



んんっ……♡

やっ……

あ……っ

大丈夫？  
痛くない？

んんっ

んんっ

んっ



んん……んん

ふぁぁ……♡

ダメっ……

だめえっ……

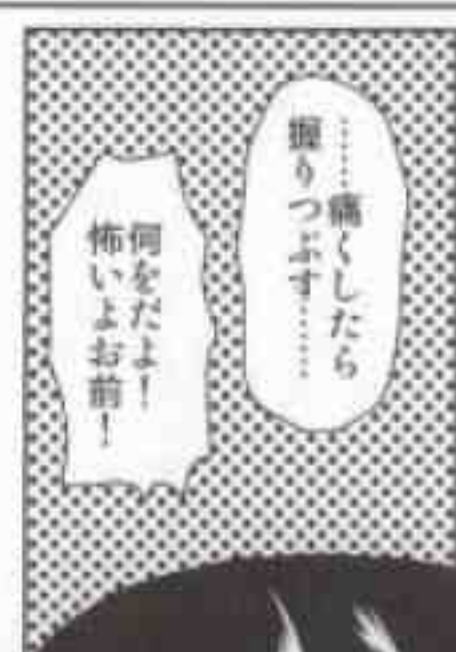
ひゃっ♡

やあっ……  
そっ……



んん……♡

うらっ……  
何なのこれ……  
恥ずかしさに  
嘔く死ねる……





んう……

んう……  
やう……

ごめん  
もう少し力抜いて

やっぱり無理っ……  
無理だってばっ！

ううっ

ズッ

いっ……

カチン



握り潰して  
いい……か？

お前が言うとお  
本気に関こえる  
からやめてくれ



……入ったよ……

う……ん



はあ……

ガクッ

ガクッ





ダイブとは違う  
アブローチで  
他人に浸食されてる

……へんな感じ……

不快?

そっか  
安心した

……  
不快な奴を進んで  
受け入れる程  
物好きじゃないわ



大丈夫か?

無理させて  
ごめんな

ああもう  
何なのこの男!

時々すごい強引かと思えば  
効果的にそんな可哀想な  
子犬みたいな顔して!







あー!!

あー!!

あッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ







イザワル。